

キャンパスを歩き、街を訪ねる。

72年前、農学部は一高との敷地交換で駒場からこの弥生に移転した。その時の一高生たちの思いを刻んだ『向陵碑』、そして300年前にこの地に遷座した根津神社を會田学部長と訪ねる。

訣別の思いを刻む

向陵碑

弥生講堂の正面左手、やや奥まった木陰に、ひっそりと建つ石碑がある。秋ともなれば色づいた木の葉がはらはらと、碑の上に音もなく舞い降りる。あたりに人影はない。

これは『向陵碑』。後ろには碑の由来が刻まれている。あたりの静けさとは裏腹に、刻まれた文字には熱い思いがこもる。「我が輩将に向陵に永訣せんとなす。嗟夫向陵よ、汝の精神は長へに我が高校とともに相終へん」。日付は昭和10年2月1日となっている。

「この年、一高は弥生を離れ、駒場に移ることになったんです。碑の前に立ち、會田勝美学部長は解説する。いわく昭和10年、駒場にあった農学部と弥生にあった第一高等学校が敷地を交換した。弥生を愛した一高生たちの訣別の思いを刻んだのがこの『向陵碑』だ。

古いアルバムを見ると、校舎引渡しの様子をとらえた写真が残っている。制服姿で隊列を組み行進する一高生たち。正門前で見送る人々。おでん屋『呑喜』の先々代ご主人は思い出深い学生たちとともに銃剣を担ぎ駒場まで歩いたという。「一高と入れ替わりで、われわれがこちらに引っ越したのだから」と會田学部長は続ける。



弥生との別れを石に刻む。

「この『向陵碑』は、農学部の“弥生時代”の始まりを告げる碑でもあるわけです」

学部の資料によれば駒場から弥生への移転は、昭和10年7月。それを農学部の「弥生」時代の始まりとすれば、すでに70余年が過ぎたことになる。



キャンパス交換で向陵(本郷向ヶ岡弥生町の一高)正門を出る一高生たち。(一高同窓会「向陵誌 駒場編」昭和59年刊より)

東大農学部が弥生に移るまで

- 1874年(明治7) 4月 現在の新宿御苑内に内務省農事修学場創設
- 1877年(明治10) 10月 農事修学場を農学校と改称、12月に駒場野に移転
- 1878年(明治11) 1月 農学校開校式、農場開設
- 1882年(明治15) 5月 農学校を駒場農学校と改称
- 1886年(明治19) 7月 駒場農学校と東京山林学校を合併し、東京農林学校となる
- 1890年(明治23) 6月 東京農林学校を帝国大学に合併、分科大学として農科大学設置
- 1897年(明治30) 6月 勅令第208号により帝国大学を東京帝国大学と改称
- 1919年(大正8) 2月 勅令第13号により東京帝国大学農学部となる
- 1935年(昭和10) 7月 農学部、本郷向ヶ岡弥生町に移転、第一高等学校と敷地交換